

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所 構内に飛来したヤツガシラ（ヤツガシラ科）

久保田 信*

Shin KUBOTA: Visiting of *Upupa epops* (Upupidae) in the campus of the Seto Marine Biological Laboratory,
Kyoto University, Shirahama, Wakayama, Japan

はじめに

ヤツガシラ科 Upupidae は 1 属 1 種のヤツガシラ *Upupa epops* LINNAEUS, 1758 のみから構成されるブッポウソウ目の鳥であり、かつては日本では稀な旅鳥であったが、昨今、岩手県、秋田県、長野県、広島県などで繁殖が見られる様になっている（藤井, 1992; 飯田・田中, 1993）。本種は少数が旅鳥もしくは冬鳥として日本へ渡来する記録が全国からあり、南西諸島では春の渡りの時期に毎年通過する。世界ではヨーロッパ南部と中部、アフリカ、南アジア、東南アジア、中国、沿海州にかけて分布し、北方で繁殖した個体は冬季に南方へ渡る。今回、ヤツガシラが和歌山県西牟婁郡白浜町に所在する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所構内に飛来したので報告する。

結果と考察

頭部に顕著な冠羽を持ち、頭部、上背、胸が橙褐色で、翼と尾は黒褐色と白色の横縞模様のヤツガシラが 1 羽（外見から雌雄の判別不能）、2013 年 4 月 13 日 14 時 40 分頃に京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所構内の資料処理室の東側に飛来したのを、新稲一仁氏が研究棟の 2 階の一室（久保田研究室）の北向きの窓から目撃した。その後、1 時間ほどの間に、この個体は地上で何かをついばんだり、樹上へ飛んだり、移動を繰り返した（図 1）。この様子は動画でも撮影できた。

それから数時間後に実験所“北浜”へ新稲氏と生物調査に出かけると、構内の北側では海辺に最も近いウインチ室付近から、1 羽のヤツガシラが飛び去った。恐らく上述の個体がここへ移動していたと思われる。

上記の観察の約 1 週間前の 2013 年 4 月 5 日、和歌山県田辺市の天神崎でヤツガシラが 1 羽出現したとの報告があり、「県内では数は少ないものの毎年どこかに飛来している」と記述されている（紀伊民報, 2013）。この



図 1 2013 年 4 月 13 日に和歌山県西牟婁郡白浜町の京都大学瀬戸臨海実験所構内に飛来したヤツガシラ *Upupa epops*

記事で報道された個体の出現時期と場所から、今回、瀬戸臨海実験所構内に飛来した個体は同一の可能性がある。

ところで、現在、京都大学特定研究員として瀬戸臨海実験所に勤務し、大学院生の時から実験所に長期滞在の河村真理子博士によると、ヤツガシラが数年前に構内の図書室の東側の原っぱで索餌していたとのことである。従って瀬戸臨海実験所構内への本種の飛来は、今から数年前に既に見られていたことになる。しかし、本年の 2014 年 1 月から 8 月中旬過ぎまで瀬戸臨海実験所構内への本種の飛来は確認されなかったのも、毎年は実験所にはやって来ないのであろう。

謝 辞

貴重な目撃情報をお知らせ下さった新稲一仁氏と河村真理子博士、文献をご教示下さった上野俊士郎博士に深謝致します。

引用文献

- 飯田知彦・田中 晋, 1993: 広島県西部におけるヤツガシラ *Upupa epops* の繁殖生態, Strix 12: 53-60.
藤井忠志, 1992: 岩手・豊間根長内におけるヤツガシラの巣立ちと残巢雛の死について, Strix 11: 341-342.
紀伊民報, 2013: 旅鳥のヤツガシラ 田辺天神崎に飛来, 2013 年 4 月 7 日付

* 〒 649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所
Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama 459,
Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan e-mail: kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp